

お知らせとお願い

参加者の方々へ

- ・ 会員の方の総会参加費は無料です。
- ・ 非会員の方は抄録代金として1000円を、備え付けのボックスへお納めください。
- ・ 受付にあるネームカードに、各自で所属・氏名をご記入ください。
- ・ 事前登録者数をもとに抄録集を印刷します。予備を準備しています。抄録集を複数ご希望される方は総会長までお申し出ください。
- ・ 事前登録者の方には抄録集をお送りしています。お忘れの方はお申し出ください。

座長および講演者の方へ

- ・ 特別講演は30分、シンポジウム講演は20分です。質疑応答を含め、この時間内にそれぞれの講演を終えてください。
- ・ 座長の方はタイムキーパーよろしくお願いします。

一般演題を発表される方へ

- ・ 口頭発表は、発表時間10分、質疑応答5分とします。講演者の方は時間を厳守してください。
- ・ 座長の方はタイムキーパーよろしくお願いします。
- ・ ポスター発表は、ロビーに備え付けの場所にポスターを掲示してください。

発表形式

- ・ Power PointとPCプロジェクターを使用してご発表いただきます。
- ・ 会場にはPCを設置します。ご自身のPCの持ち込みも可能です。
- ・ 事前に接続確認をしてください。スムーズな運営にご協力お願いします。
- ・ 設置したPCへのファイル移行に際しては「演者名」をファイル名としてください。
- ・ 音声および動画の再生については対応しません。

3階会場

0日目	15:00-17:00	理事会		
	8月25日(木)	18:00 -	理事懇親会	

ロビー

1日目	8:00-8:50	受付		
-----	-----------	----	--	--

8月26日(金)

会場A

時間			氏名	演題
9:00-9:05	開会挨拶		近藤 格(国立がん研究センター研究所)	
9:05-9:35	セッションI: 電気泳動による臨床検査・機能性食品の新たな展開	特別講演	森山 隆則(北海道大学大学院)	腫瘍産生シリアル唾液型アミラーゼの発見とその後の展開
9:35-9:55		シンポジウム講演	吉田 繁(北海道大学大学院)	DNAシーケンサーによるHIV薬剤耐性変異の検出とその課題
9:55-10:15			布田 博敏(北海道大学大学院)	マガキ由来抗酸化物質における機能性食品としての可能性
10:15-10:35			千葉 仁志(北海道大学大学院)	検査室でのApoE-rich HDLとの遭遇から診断薬開発まで
10:35-10:45	セッションII: 蛋白異常を標的とした病態解析と診断治療へのアプローチ	特別講演	安井 寛(東京大学医科学研究所)	多発性骨髄腫における先端医療開発の今後
10:45-11:25		シンポジウム講演	Nuno Barbosa, PhD.(The Binding Site Group Ltd.)	Clinical recommendations for the measurement of serum free light chains and the emerging role of heavy/light chain pair analysis in the management of monoclonal gammopathies
11:25-11:45			中野 恵一(北海道大学病院)	3次元電気泳動によるM蛋白解析とその多様性
11:45-12:05			磯尾 直之(東京大学医科学研究所)	ポリアクリルアミドゲル電気泳動によるマラリア患者リボ蛋白解析
12:05-13:05	sainome株式会社	ランチョンセミナー	近藤 格, 塩澤 久美子(国立がん研究センター研究所)	やさしいin-gel digestion
13:05-13:20	休憩			
13:20-13:50	セッションIII: キャピラリー電気泳動法の最前線	特別講演	志村 清仁(福島県立医科大学)	一体型キャピラリーデバイスを用いたエリスロポエチンの等電点パターン分析
13:50-14:10		シンポジウム講演	山口 佳則(大阪大学、華東理工大学大学院)	RNAキャピラリー電気泳動
14:10-14:30			一木 隆範(東京大学大学院)	オンチップ電気泳動システムによる生体由来ナノ粒子解析
14:30-14:50			齋藤 伸吾(埼玉大学大学院)	キャピラリー電気泳動法を用いる細菌および動物細胞を認識するDNAアダプターの新規獲得法
14:50-15:10			北川 文彦(弘前大学大学院)	生体分析への応用を目指した簡易操作型マイクロチップ電気泳動法の開発とさらなる高感度化
15:10-15:40	ポスター発表および展示発表会			
15:40-16:10	セッションIV: Phos-tag電気泳動法の応用	特別講演	木下 英司(広島大学大学院)	質的・量的なリン酸化ダイナミクスを捉える Phos-tag SDS-PAGE
16:10-16:30		シンポジウム講演	小川 寛之(東京大学大学院)	神経細胞における微小管脱重合の制御機構の解明:Phos-tagからリン酸化定量プロテオミクスまで
16:30-16:50			石垣 靖人(金沢医科大学)	Phos-tagを利用した腫瘍細胞における核内タンパク質群のリン酸化制御機構の解明
16:50-17:10			竹谷 浩介(旭川医科大学)	Phos-tagを利用した高感度リン酸化定量 ~腎微小循環系におけるミオシンリン酸化調節機構の解明を目指して~
17:10-17:30			堀之内 孝広(北海道大学大学院)	Phos-tag biotinを用いた受容体作動性TRPC6チャネルのPKAリン酸化部位の同定
17:30-17:40	総合討論			
17:40-18:00	ポスター展示および展示発表会			
18:30-21:00	懇親会 (ANAクラウン・プラザ・ホテル)			

会場B				
1日目	時間		氏名	演題
8月26日(金)	8:10-8:50	評議委員会		
		13:05-13:20	休憩	
	13:20-13:35	一般講演1	草本 寛(広島大学大学院医歯薬保健学研究院)	Thio-tag Tipを用いたチオール基含有化合物の選択的分離精製法
	13:35-13:50	一般講演2	島崎 洋次(愛媛大学大学院)	非変性条件等電点電気泳動による分画法を用いた標的タンパク質の機能解析法の検討
	13:50-14:05	一般講演3	松本 梨沙(北里大学大学院)	ランダム免疫法で作製された単クローン性抗体の血清診断マーカーとしての有用性の検討
	14:05-14:20	一般講演4	小松 徹(東京大学大学院)	Diced Electrophoresis Gel (DICE)法を用いた癌細胞における活性異常酵素の探索
	14:20-14:35	一般講演5	萩生田 大介(北里大学大学院)	ガラス基板を用いたReverse-Phase Protein Array法による肺癌関連マーカーの探索
	14:35-14:50	一般講演6	長谷川 綾那(麻布大学)	プロメラインによる牛乳の主要アレルゲンであるカゼインとβ-ラクトグロブリンの低減化
	14:50-15:05	一般講演7	小柳 充(新潟大学)	佐渡の放鳥されたトキ集団における鳥インフルエンザウィルスのリスク評価
	15:10-15:40	ポスター発表および展示発表会		
	15:40-15:55	一般講演8	長井 俊彦(福島県立医科大学)	抗体アフィニティークラムとキャピラリー等電点電気泳動の直接結合 - 第3報 より温和な溶離・陽極液を用いた直接結合分析 -
	15:55-16:10	一般講演9	増川 陽大(浜松医科大学医学部附属病院)	サイトカイン刺激による多発性骨髄腫由来のエクソソームの糖鎖変化
	16:10-16:25	一般講演10	小山 溪友(文京学院大学大学院)	サイトカイン刺激による多発性骨髄腫細胞が分泌する糖鎖の構造変化
	16:25-16:40	一般講演11	鈴木 杏奈(北里大学大学院)	膀胱癌新規バイオマーカーとしてのCytoskeleton-associated protein 4の有用性
	16:40-16:55	一般講演12	早川 敦子(芝浦工業大学)	2D-DIGE法を用いた糖尿病モデルラット腎組織のプロテオーム解析
	16:55-17:10	一般講演13	塩澤 久美子(国立がん研究センター研究所)	消化管間質腫瘍の予後予測バイオマーカー「フェチン」の機能解析
	17:40-18:00	ポスター展示および展示発表会		
	18:30-21:00	懇親会 (ANAクラウン・プラザ・ホテル)		

会場A					
時間			氏名	演題	
2日目 8月27日(土)	8:10-9:00	総会および受賞講演			
	9:00-9:30	セッションV: アフィニティーに関連する電気泳動技	シンポジウム講演	大石 正道(北里大学)	糖アフィニティー電気泳動法による高分子量タンパク質の解析
	9:30-9:50			中村 和行(徳山医師会病院)	アフィニティー電気泳動法の開発と応用
	9:50-10:10			亀山 明彦(産業技術総合研究所)	アフィニティ分子マトリックス電気泳動の新たな技術展開
	10:10-10:30			山中 正道(静岡大学)	低分子化合物の自己集合で形成する超分子ゲルを用いた電気泳動法の開発
	10:30-11:00	セッションVI: 細胞生物学の最先端科学	特別講演	武川 睦寛(東京大学医科学研究所)	ストレス顆粒形成によるストレス誘導アポトーシスの制御と活性酸素によるその破綻
	11:00-11:20		シンポジウム講演	吉田 秀郎(兵庫県立大学)	ゴルジ体ストレス応答 - ゴルジ体から核へのシグナル伝達
	11:20-11:40			稲田 利文(東北大学大学院)	リボソーム修飾シグナルによる翻訳の動的制御
	11:40-12:00			徳永 文稔(大阪市立大学大学院)	直鎖状ユビキチン鎖による炎症・免疫シグナル制御とその破綻による疾患
	12:10-13:10	昼食			
	13:10-13:40	セッションVII: 新しい消化器疾患の診断・治療研究	特別講演	伊東 文生(聖マリアンナ医科大学)	胃内視鏡洗浄液による分子診断
	13:40-14:00		シンポジウム講演	高橋 秀明(札幌医科大学、聖マリアンナ医科大学、横浜市西部病院)	microRNA フィールド破綻に基づくB 型肝炎の発がんリスク診断
	14:00-14:20			清川 博史(神奈川県立がんセンター、聖マリアンナ医科大学東横病院)	肝細胞癌の新規腫瘍マーカーの探索
	14:20-14:40			松本 伸行(聖マリアンナ医科大学)	肝細胞造影による肝細胞癌スクリーニングを可能とする新規X線造影剤開発の試み
	14:40-14:50	休憩			
	14:50-15:10	セッションVIII: 電気泳動を基盤とした研究の現状と今後の展望	シンポジウム講演	近藤 格(国立がん研究センター研究所)	がんの研究におけるプロテオーム解析の考え方
	15:10-15:30			喬 志偉(国立がん研究センター研究所)	Multi-proteomics approach towards clinical applications in sarcomas
	15:30-15:50			柳田 憲吾(北里大学)	Reverse-phase protein array法を用いた血清診断マーカーの探索
	15:50-16:10			杉山 康憲(香川大学)	マルチPK抗体:プロテインキナーゼを幅広く認識できる解析ツール
	16:10-16:30			曾川 一幸(麻布大学)	新規鶏卵卵黄アレルゲンの探索・同定、食品化学における電気泳動法の応用
16:30-16:50	長塩 亮(北里大学)			癌幹細胞化させた微小乳頭肺腺癌細胞株を用いたプロテオーム解析	
16:50-17:00	閉会の挨拶			近藤 格(国立がん研究センター研究所)	

会場B				
時間			氏名	演題
2日目				
8月27日(土)				
9:00-9:20	セッションIX: 悪性腫瘍の分子背景を探る技術としての電気泳動法	特別講演	ジュネイド・バラヤン(Istanbul Medipol University)	Quest for biomarkers/ gene signatures in sarcoma by using comprehensive meta data
9:20-9:40		シンポジウム講演	清家 正博(日本医科大学大学院)	血清プロテオーム解析を用いた肺扁平上皮癌のバイオマーカー探索
9:40-10:00			杉原 豊(ルンド大学)	蛍光二次元電気泳動法を用いた大腸がんのプロテオーム解析とAPC-binding protein EB1の臨床応用への試み
10:00-10:20			諸藤 教彰(久我山病院)	大型蛍光二次元電気泳動法を用いた胆道がんのプロテオミクス解析 -胆道がん細胞株、Xenograftモデル、臨床検体を用いて-
10:20-10:40			末原 義之(順天堂大学)	骨軟部腫瘍の組織型特異的融合遺伝子に関わるプロテオーム解析
10:40-11:00			菊田 一貴(慶應義塾大学)	粘液線維肉腫浸潤性関連候補タンパク質同定のための蛍光二次元電気泳動法を用いたプロテオーム解析
11:00-11:20			細谷 法之(山形大学)	手術検体を用いた腎細胞がんのプロテオーム解析
11:20-11:40			浅井 孝夫(新潟医療福祉大学)	ホルマリン固定パラフィン包埋組織からの胆嚢がん特異蛋白の検索
11:40-12:00			藤井 一恭(鹿児島大学)	2D-DIGEを用いたヒストン脱アセチル化酵素阻害剤の併用療法のターゲットの同定
12:00-13:10	昼食			
13:10-13:30	セッションX: 臨床検査における電気泳動法	シンポジウム講演	上田 一仁(市立芦屋病院)	蛋白分画と免疫電気泳動は相思相愛?
13:30-13:50			本田 早織(千葉大学医学部附属病院)	生化学自動分析そうちにおける異常反応検出機能によって検出された検体の解析
13:50-14:10			土屋 達行(けいゆう病院)	電気泳動法の臨床検査への貢献 -泳動結果の臨床的解析と報告について-
14:10-14:30			ハウリー 亜紀(文京学院大学)	尿タンパク電気泳動をベットの腎症診断へ
14:40-14:50	休憩			